

教育改善 PDCA 進捗シート-10

課題名称	学修原論（2年前期）の評価方法
起案者	学務委員（鶴崎・伊藤）

※原則として起案者が本シートを継続的に記録，学科ホームページにUPする。

課題の概要（改善すべきとする背景と目的）

現在の評価方法は担当教員が50点、発表会採点が50点の合計からなるが、担当教員の評価も発表会の採点のポイントも、評価する側は、より明確に学習教育目標との対応を意識した方が良いのではないか。出席点と努力点の意味の確認と、採点評価項目を改めてチェックした方が良い。大幅に変更する必要はなく、学習教育目標をより意識した評価項目の表現にする。そしてその内容を再認識する。

Phase	議論・措置の内容	議論の経過（年月 委員会 等）	次回予定
<b>P</b>	<p>■現行でも学習教育目標とは対応しているので、目標との対応がわかりやすいように各評価項目の内容の説明を補えば良い。</p> <p>【出席点】とは、「課題を分析し、実施計画を組み立てて行われたものか？」である（JABEE 基準 F に対応）</p> <p>【努力点】とは、「自主的・継続的に取り組まれたものか？」である（JABEE 基準 G に対応）</p> <p>【テーマ設定】とは、「社会や技術の要請の中から自ら課題を見出し、それらを積極的に解決しようとしたものか？」である（JABEE 基準 D に対応）</p> <p>【プレゼンテーション】とは、「自らの考えや体験を正確かつ論理的に表現しているか？チームワークよく発表しているか？」である（JABEE 基準 E に対応）</p> <p>【内容】とは、「設定したテーマに対してのアプローチの仕方の適切さ」である（JABEE 基準 F に対応）</p>	<p>2011年7月（鶴崎・及川・伊藤）</p> <p>2011年9月（及川・伊藤）</p> <p>2011年10月（教室会議）</p>	<p>2010年9月</p> <p>2011年10月</p>
<b>D</b>	<p>■評価シートにPlanの内容に基づいた説明を書き加えた。発表会での審査員のシートについても同様。</p> <p>■Planの内容に基づいて、指導教員および発表会の審査員は、各評価項目の内容を再確認した上で評価を行った。</p>	<p>2011年10月（教室会議）</p> <p>2011年10月（教員 E-mail）</p>	<p>2011年10月</p>

C	<p>■評価方法については現行と実質的な変更はなく実施上も問題なかった。</p> <p>■2012年度も同様に継続的に実施する。</p>	<p>2011年10月（教員 E-mail） 2011年10月（鶴崎・伊藤）</p>	<p><del>2011年10月</del></p>
A	<p>■実施方法および評価方法について学年担任から説明。</p> <p>■担当教員の配点 50 点の内訳を評価基準ごとに明確化し、</p> <p>「分析・計画点」（基準 F に対応）：25 点 「自主・継続点」（基準 G に対応）：25 点とした。また、評価に際しては</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの基準に対して独立して評価する</li> <li>・目標に至らない基準が 1 つでもある場合には単位取得できない</li> </ul> <p>ことを毎年確認することとした。</p>	<p>2012年3月（金井・伊藤） 2012年4月（教員 E-mail）</p>	<p><del>2012年3月</del></p>
C2	<p>■実施 2 年目にあたり実施状況を再チェックし、段取りとおりに実施できていることを確認した。</p> <p>■段取り通りの実施状況が確認されたため、本 WG は完了とした。</p>	<p>2012年10月（教員 E-mail）  2013年3月（教室会議）</p>	<p><del>2013年3月</del></p> <p><b>【WG 完了】</b></p>

※ C2、A2 は 1 サイクル目で 2 回目の C および A。